

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301088	
法人名	社会福祉法人 同伸会	
事業所名	グループホーム ほたる	
所在地	青森県八戸市大字大久保字大山32-1	
自己評価作成日	平成26年9月28日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

回想法を取り入れている。口頭だけでなく、昔の話をするよりも実際に昔使用していたものを見る、使うことで思い出して、生き生きとした表情を見せる利用者が多い。また、第2桜ヶ丘住民によるボランティアも今年6年目になり、利用者も来園を楽しみにしており、来園時には笑いが絶えず、馴染みの関係になってきたと感ぜられるやりとりも聞かれている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会	
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号	
訪問調査日	平成26年11月12日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議を通して地域住民とのつながりが深まり、地域の婦人ボランティアが結成され、利用者の話し相手・散歩の付き添い等の協力を得ており、利用者の楽しみになる等、交流も定着している。また、家族とも良好な協力関係を築き、家族交流会や昼食会等、利用者と一緒に楽しめるように取り組んでいる。  
全職員でホームのあり方を話し合い、理念を見直し、「ひとりの人としてありのままを受け入れる」を心がけ、声かけや対応に気を配りながら、日々の生活の支援をしている。また、協力医療機関や併設施設との連携が整っており、安心が確保されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を提示し、いつでも振り返ることができるようにしている。実習生にも説明し、同じ意識を持ってもらえるように行っている。	全職員でホームのあり方を話し合い、「落ち着いた空間で、心身共に寄り添い、ひとりの人として、ありのままを受け入れてもらえるグループホームです」と理念を見直している。また、理念をホーム内に掲示する等、折に触れて振り返り、確認しながら、職員は利用者の立場になって日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の行事に地域のボランティアの方が来園している他、地域の小・中学校の行事へ参加をしている。	運営推進会議をきっかけに地域との交流が深まり、婦人ボランティアが月に2、3回来訪し、利用者の話し相手や散歩の付き添い等で協力を得ている。また、地域の小・中学校の行事に参加したり、実習生を受け入れている他、「回想法」について住民を含めた学習会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症について説明をしたり、実習生の受け入れ時に認知症の方との関わり方等、実際に経験する機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域・ご家族の意見により、ほたるでの利用者支援に自分達では思いつかなかったような案をいただき、会議で話し合い、実践できそうなものは取り入れ、向上に努めている。	民生委員や町内会長(2町内)、地域住民等の参加を得て、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、ホームの現状や自己評価及び外部評価等を報告し、意見をいただいている。また、地域住民の方々が介護の現状や動向に関心が高く、提案・要望が出されており、地域とのつながりも深まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は確認するように心がけている。ほたるの広報誌や会議の議事録を持って行った際には、担当者の方に直接手渡している。	市担当職員や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、自己評価及び外部評価結果や広報誌を提出し、ホームの現状を伝えている。また、地域の高齢者の現状を伝えたり、制度変更や市の新しい情報をいただく等、相互に連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や職員間の意見交換の場で話し合い、見守り等の意識を持てるようにしており、判断しがたい場合には身体拘束に含まれる事項について確認しながら、拘束しないケアを実践している。やむを得ず必要な際にはご家族へ説明し、同意をもらってから等の手順がある事も伝えている。	マニュアルを作成し、内部・外部研修等で学習して理解を深めている。玄関は施錠せず、出入りの自由を確保している他、外出傾向があれば、場面転換や気分転換を図りながら、個々に応じた声かけや見守りをしている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、家族への説明・同意書、経過観察記録を残す体制も整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・会議の場で伝えている。声かけ、態度等、身体面だけではなく、精神面や介護の面での虐待についても説明し、取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在いる職員の中には研修を受けていない職員もいるため、改めて学ぶ必要があると感じている。必要性のある利用者は現在いないが、いざ必要となった時に活用したり、相談にのれるようにする必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書を基に、契約時、終了時に不明な点や疑問等を聞き、納得してもらえるようにしている。また、契約関係以外の事でも話を聞き、安心できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にオンブズマンへの意見箱が設置されており、月1回の来園時に利用者とお話をする等、意見等も吸い上げている。また、ケース会議の際に意見の吸い上げをし、ケアにも活かすようにしている。	意見箱を設置したり、ホーム内・外の相談窓口を明示している他、オンブズマンが来所し、利用者の意見等が把握されている。また、家族には毎月便りを発行し、担当職員が利用者の暮らしぶりや健康状態を記載して伝えている他、介護計画作成の会議にも参加していただき、意見・意向を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月曜日に主任者会議での内容等を報告している。また、普段でも、職員からの意見等で難しい課題もあるが、管理者へ伝え、改善できるように努めている。	会議で話し合いたい内容を入れる袋を設置し、業務に対する意見・要望のアンケート等を集めて会議を開催している。また、ケアカンファレンス等を頻繁に行い、出された意見は全職員で話し合い、できる事から日々のサービスに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の力量、キャリアに合わせた仕事内容、量の調節を行っている。また、労働時間についても、残業時の時間外を出しやすい環境を心がけ、職員に声かけしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	疑問等を解消できるよう声をかけ、分からない事がそのままにならないようになっている。また、力量に合わせた研修への参加の促しや、説明を行っている他、内部研修では対象者に合わせた研修内容を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加した際に交流できるようにしているが、個人差がある。交流会等がある際には積極的に参加を促し、情報共有が行えている職員もいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や情報提供書等も確認し、ご家族からの要望・情報を聞いた上でコミュニケーションを図り、職員間での情報共有を行い、安心して生活できる場になるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や近況報告の連絡時、ケース会議の際等、不安や要望を聞くようにしている。そのままにしないようにするために、課題のままにしないように努力をし、関係づくりを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開始時にはご家族の意見を聞き、本人の様子も見ながら、その時必要な支援を行えるよう確認しながら行っている。本人の必要とする部分については、ご家族からのお話を伺ったり、確認できる方には確認しながら行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主体で生活できるように努めている。また、できる部分はやってもらうこと、利用者と共に職員も一緒に家事を行う等して、暮らしを共にする者同士の関係を築くように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も参加してのケース会議の開催を行い、ご家族に本人の現状を伝えたり、変化に関心を持ってもらえるようにしている。また、オムツ等の必要品を持ってきてくださったり、行事への参加をしてもらうことで、面会へつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際に来園することは少ないが、年に一度等、来てくださる方がいる。また、ご家族も、馴染みの方と写っている写真を持ってきてくれることがある。出向くことは少ないが、地域での行事等について、その時期に話題に出し、盛り上がることも多い。	親戚・知人の訪問や電話の取り次ぎ、年賀状のやり取り等、これまでの交流を継続できるように支援している。また、買い物やドライブコースに馴染みの場所を取り入れている他、家族とも連絡を取りながら、墓参りや自宅周辺に行く等、柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	分からない部分をそれぞれが教え合ったり、食器を下げるのを手伝っている。回想法や行事等で、利用者間で関わりを持つ時間も増えているように思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ数年では利用者が亡くなり、利用終了ということがほとんどで、契約終了後の支援はほとんど行っていない。だが、入院等で契約終了となった際には面会に行ったり、ご家族の話聞く等の支援を行っていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら、希望・意向を把握するようにしている。困難な場合は、ご家族から聞いたり、本人の立場になって考えるようにしている。	「一人ひとりのありのままを受け入れる」の理念を心がけながら、どのように過ごしたいのか、利用者の思いを聞いたり、表情や行動からくみ取るようにしている。また、必要に応じて家族からも情報収集し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用していた事業所に確認しながら、本人の今までの生活の仕方を把握できるように努めている。本人の行動・言葉からも分かる事もあり、その事も家族に確認等をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・職員間での情報交換を行っており、本人のその日の状況、状態も含め、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議前に職員から意見をもらい、プランに反映させている。また、ご家族も会議に参加していただき、現状に即したプランを作成するようにしている。	担当制を取り、アセスメント・計画作成・評価を担い、計画作成の際には家族も参加し、意向を確認している。また、実施期間に関わらず、状態変化に応じて随時見直しが行われ、普段の生活で可能な事を盛り込み、その人らしい生活が送れる介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、気づきを記録し、日々の変化の共有、プランへの反映に努めている。職員間でもその都度、情報共有しながら、実践につなげられるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援には取り組んでいるが、「今出かきたい」という要望にはなかなか取り組むことができていない現状である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来園があり、利用者の中には心待ちにしている方もいる。また、地域行事に参加する時にも声をかけてもらい、利用者と一緒に参加しやすくなってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院があるため、いつでも対応ができる。連携については、利用者の変化や気になる症状がある際には、こまめに連絡をするようにしている。	利用者・家族の希望する医療機関を受診できるように支援している。また、協力医療機関の訪問診療も受けられ、必要に応じて、認知症専門医・歯科・眼科・耳鼻科の受診も支援している他、受診結果は電話や便りで伝え、共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回勤務している看護師がいるため、相談したり、デイサービスや病院の看護師にも相談し、利用者が適切に受診・看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	昨年、看取りの方がおり、相談する機会もあったため、病院看護師の方との情報交換や相談はしやすくなったように思う。だが、職員は医師からの説明は受けられない現状があり、ご家族や看護師から受けている状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いざ看取りの対象となった場合に備え、ご家族からの意向確認を進めている。現時点での意向確認であるため、実際に医師からその時期だと診断された時には、その都度、ご家族に確認して対応している。	「看取り介護に関する指針」を明示し、家族に説明している。状態変化に応じて家族の思いを確認し、医療機関や他施設への移行を支援している他、今までにも自然経過での看取り介護を経験しており、その評価を踏まえて、今後の対応についても検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会へ参加し、行っているが、定期的に訓練はしていない。実際にはマニュアルに沿って行ったり、隣接している病院の指示を受けて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での訓練は毎月行っている。日中の火災訓練はデイサービスと年に数回行っている。地震・水害についてはマニュアルはあるが訓練はしていない。地域とは、地域の体制が整い次第、協力体制を整えていきたいことは伝えている。	法人全体の避難訓練の他、毎月、ホーム独自に避難誘導の自主訓練を行い、いざという時に適切な対応ができるよう取り組んでいる。3日分の食料・水、ストーブ等も準備されている他、設備点検も定期的に行っている。また、併設の事業所からの人手が確保されている他、運営推進会議を通して、地域の協力体制について働きかけている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に対応した統一事項を周知し、対応している。研修でも認知症の方の心理の面についても伝えながら、言葉遣いや態度を気をつけるよう意識してもらっている。	「人としてのありのままを受け入れる」の理念を心がけ、利用者の言動をせかすことなく、ゆっくりとした雰囲気大切に話を聞いている。また、声がけや対応については法人内の研修やホームでの話し合い等で学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、なるべく本人の意思で決めてもらえるようにしている。たくさん選択肢で迷うこともあるが、そういう時には選択肢を絞りながら決められるようにする等、利用者に合わせて対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にすることを心がけている。業務優先になることも見受けられるため、職員間でも声をかけ合えるような環境も必要と思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に今日着る服を選んでもらったり、鏡を見て髪を整えたりしている。自分でできない時には職員が手伝うこともあるが、本人に聞きながらおしゃれができるようにしている。また、行事の時にはお化粧ができるように道具があり、希望に応じて対応できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれに役割があり、準備から片付けまで行っている。実際に作業が難しくても、食べたい物をメニューに取り入れたたり、見える場所での調理を心がけ、調理中の匂いや今日のご飯が何か伝えることで、楽しみにつながるようにしている。	利用者の希望や好み、体調に合わせた食事を提供している。できる範囲で、下ごしらえやみそ汁作り、盛り付け等が利用者の役割となっており、達成感につながっている他、職員は利用者がゆったりと食事を楽しめるよう、利用者の状態やペースに気を配り、支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫をしたり、本人の嗜好・状態に合わせて、水分をゼラチンで固めて提供したりと、苦痛を感じず水分が取れるようにしており、一日の水分量を記録し、職員間で周知している。また、朝・夕の献立を栄養士に見てもらい、アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声がかげで行える方には行ってもらい、義歯は夜預かり、義歯洗浄剤で洗浄している。介助が必要な方には、歯磨きや口腔用のウェットティッシュで、清潔に保てるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムに合わせた誘導を行い、トイレでの排泄ができるようにしている。また、パッドも個人に合わせたパッドを使用している。	排泄パターンを把握し、事前誘導でトイレ排泄を目標としている。ホームではオムツ使用の継続について見直しを重ねながら、紙オムツの使用が軽減する等、成果が上がっており、布パンツ使用の方も多し。また、失禁時は速やかに静かに対応し、利用者の羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤使用者もいるが、食事に繊維ものを取り入れ、食べやすい形態で提供したり、乳酸菌飲料の提供や水分を提供して、下剤に頼らずに排便できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	介助を必要とする方や身体状況の変化等もあり、看護師勤務の日に入浴が決まっている方がいたり、職員の配置状況によっては入浴時間は希望には浴えていない。(寝る前の希望は浴えず。)入浴中はゆっくり入れるように行っている。	基本的に週2回のペースで入浴を行っており、1対1で介助している。入浴を面倒がる利用者には誘導を工夫しながら取り組んでいる他、利用者の希望を聞きながら、安全に入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が強い時には居室で休んでもらったり、希望を聞きながら対応している。夜間も気持ちよく休めるように寝具を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員分を覚えることはできていないが、薬の内容はすぐ見れる所にファイルしており、いつでも確認ができる。また、追加での薬処方があった時にも、何の薬が出たのか確認できている。また、分包して日付を書き、いつの薬なのか確認しながら服薬対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割の提供、嗜好品・趣味の提供を心がけている。誕生日には好物を夕食で作り、提供している。時にはみんなで運動会、おやつ作り等もしながら、気分転換が図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望には沿うことができていない。ボランティアが来てくれる外出行事で行ったり、地域の行事には出かけられるようにしている。本人の希望を聞き、早い段階で実現できるようにすることが課題と思う。	日頃から、敷地内の花壇への散歩や食材の買い物に出かけている他、花見や祭り、外食等の年間計画を立て、外出支援に取り組んでいる。利用者の体調に合わせた外出時間や距離に配慮し、無理のない支援を行っており、家族参加の企画も豊富で、手打ちそば体験やサクランボ狩り等に一緒に出かけ、楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお小遣いを所持している方がいる。外食時、散髪時には自分の所持している財布から支払っている。計算が難しくなっているが、自分で管理することはできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が来た時には取り次いで、家族と本人が直接話せるようにしている。年賀状も本人と一緒に書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に確認しながら、照明やエアコンの調節をしている。トイレの暖簾を季節毎に変えており、話題にしている他、「ほたるしんぶん」をつくり、今月の行事や時期の歌を載せ、季節感を感じられるようにしている。	大きな窓から自然光が入り、明るく、利用者はホールのテーブルや廊下のソファで、それぞれ思い思いにゆったりと過ごされている。ホーム内は温・湿度計で適度な環境が維持されている他、壁には「ほたるしんぶん」やスナップ写真が掲示されている。また、行事のお知らせや暖簾の模様等でも季節が感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にあるソファに移動したり、居室で過ごしたり、ホールに戻ってきて過ごしたりと、好きな時に好きな場所で過ごしている。時々、利用者同士の話も聞こえてきている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた布団や、家具を持ってきてもらっている。また、本人の安心につながるもの(アルバムやよく読んでいた本等)も持って来てくれており、自分の居室が居心地が良いものとなるよう工夫している。	居室には入居前に使用していた飾り棚やタンス、テレビ、家族写真等が持ち込まれている。利用者が心地よく過ごせるよう、職員と一緒に、利用者の意向を聞きながら、一人ひとりに合わせた居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事は把握していると思う。過介助になっている部分があり、その都度、声がけをしている。少し手を加えることで分かる事、できる事もあるため、取り組んで行きたい。		